

## 武家の履歴書をよむ

倉敷市歴史資料整備室 畑 和良

### 【今回の講座の題材について】

江戸時代のはじめ以降、武士が様々な目的で自分の見聞きした出来事や自分が誰に仕えてどんな活動をしてきたのかをまとめ、それぞれの土地の藩主に提出する機会が増加。

- 1) 藩主が自分の家の歴史をまとめるための資料として、老齢の家来に経験談をまとめさせるケース。毛利家の家臣がたくさんこの種のものを書いている。
- 2) 戦争やお家取潰しで仕えていた領主の家がなくなり、浪人になった武士が、再就職するために先祖や自分がどんな活動をしてきたか履歴をまとめ、再就職希望先に提出するケース。大坂の陣の浪人がこの種のを多く残している。
- 3) 現在特定の領主・藩主に仕えている武士が、一定期間ごとに自分の仕事内容をまとめて藩に提出するケース。岡山藩士のものが大量にある。
- 4) その他いろいろ

目的は色々だが、いずれも武士が自分の家の成り立ちや自分の経験・仕事ぶりをまとめた履歴書といってよいもの。経験談をまとめたものは「覚書」、職務経歴をまとめたものは「奉公書」と呼ばれたりする。先祖の業績を調べたりするのに使える資料。江戸時代の早い時期に書かれたものは、古老の体験した戦国時代の出来事がわかる資料。

### 【古文書学習のコツ】

古文書そのものを辞書として学習する。活字化されている古文書から入門するのがよいかも。くずし字辞典だけを頼りに一字一字突き止めていくのは結構大変。古文書の写真・コピーと、その内容を翻刻した資料集を見比べていくと、活字でこう書いてある文章がくずし字だとうどう書くのか、文章のまとまり・古文書特有の単語や言い回し込みで頭に入ってくる。同じ文章の中から同じかたちのくずし字を見つけるゲーム感覚でやれる。今日の講座でも、最初は読みやすい江戸時代の武士の履歴書の活字の一部だけ穴あきにしたものを読んでみましょう。慣れたら、まとまった記事を全文解読してみましょう。最後は試しに、中世の文体で書かれた戦国武士の文章に触れてみましょう。





【例文8】 穴あき部分だけ読んでみましょう。宇喜多氏が毛利方のある城を攻めた際に、中島政家が宇喜多方の武将に従って参戦した時の記録です。城の名前や武将の名前が書かれています。

### 【まとめ】

一つだけ、文章のまとまりごと（単語だけでも）くずし字でどう書くのか覚えて帰りましょう（「候」とか「兵衛」とか）。いきなり全文読めなくても大丈夫。一か所だけ読めたらうれしい。

### 【覚書や奉公書の所蔵場所】※どこで見られるか

【岡山大学附属図書館】 岡山藩士が藩に提出した履歴書が膨大に残されており、手続きすれば図書館のマイクロフィルムを閲覧・複写できる。どんな家・人物の履歴書が残っているかは図書館ホームページの「池田家文庫マイクロフィルム目録データベース」から検索できる。古い時代の履歴書は一部活字化されて本になっている（倉地克直編『岡山藩家中諸士家譜五音寄』1～3巻／岡山大学文学部研究叢書、1993年）。

【倉敷市歴史資料整備室】 岡山藩家老天城池田家の当主や家臣がまとめた履歴書がいくつか残っている（徳山家文書・平山家文書など）。室には戦国時代に宇喜多氏に仕えた武将の覚書、大坂夏の陣で手柄を立てた浪人の履歴書なども残っている（亀山家文書・平山家文書）。どれも戦国時代から江戸時代にかけて生きていた本人の経験をまとめた貴重な資料。これらは現物を閲覧・撮影できる。

今日の講座はこれでおしまいです。ありがとうございました。